

14:13 ですから、私たちは、もはや互いにさばき合うことのないようにしましょう。いや、それ以上に、兄弟にとって妨げになるもの、つまずきになるものを置かないように決心しない。

14:14 主イエスにあって、私が知り、また確信していることは、それ自体で汚れているものは何一つないということです。ただ、これは汚れていると認める人にとっては、それは汚れたものなのです。

14:15 もし、食べ物の中で、あなたの兄弟が心を痛めているのなら、あなたはもはや愛によって行動しているものではありません。キリストが代わりに死んでくださったほどの人を、あなたの食べ物の中で、滅ぼさないでください。

14:16 ですから、あなたがたが良いとしている事がらによって、そしられないようにしない。

14:17 なぜなら、神の国は飲み食いのことではなく、義と平和と聖霊による喜びだからです。

14:18 このようにキリストに仕える人は、神に喜ばれ、また人々にも認められるのです。

14:19 そういうわけですから、私たちは、平和に役立つことと、お互いの霊的成長に役立つこととを追い求めましょう。

14:20 食べ物の中で神のみわざを破壊してはいけません。すべての物はきよいのです。しかし、それを食べて人につまずきを与えるような人のばあいは、悪いのです。

14:21 肉を食べず、ぶどう酒を飲まず、そのほか兄弟のつまずきになることをしないのは

良いことなのです。

14:22 あなたの持っている信仰は、神の御前でそれを自分の信仰として保ちなさい。自分が、良いと認めていることによって、さばかれない人は幸福です。

14:23 しかし、疑いを感じる人が食べるなら、罪に定められます。なぜなら、それが信仰から出ていないからです。信仰から出ていないことは、みな罪です。

人は主の御心に従って歩むべきで、礼拝し教会を建て上げ、兄弟姉妹を愛し、救いを伝え、証しを立てて生きるべきです。しかし食べ物など本質的でないことでは、自由が与えられています。

本質でないことで、人を批判するときは、その多くが、人間的な基準で測っているものです。しかし本当の基準は神様にあります。神様に聞いて、従って歩んでいるなら、周囲がそれを批判することはできません。

それでも自由だからといって、人を害するようなことがあってはなりません。「つまずき」にならないように、「そしられないように」すべきです。また当然「お互いの霊的成長に役立つこととを追い求め」るべきです。

大切なのは人間的な基準ではなく、愛なのです。そしてその愛を与え、教えてくださるのは神様です。ですから神様への「信仰」が必要条件であり、「信仰から出ていないことは」的外れとなり、それゆえに「みな罪（＝的外れ）」なのです。

自分の基準ではなく、主に聞いて判断しましょう。また行いましょう。生き方としましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

